

JEITA

電子情報技術産業協会規格

Standard of Japan Electronics and Information Technology Industries Association

JEITA CP-5102E

衛星放送受信アンテナ試験方法 (機械的及び環境的性能)

**Methods of Measurement on Receiving Antennas
for SHF Satellite Broadcast Transmissions
(Mechanical and Environmental Characteristics)**

1989年3月制定

2025年3月改正

作 成

AV&IT 標準化委員会

AV & IT Standardization Committee

発 行

一般社団法人 電子情報技術産業協会

Japan Electronics and Information Technology Industries Association

目 次

ページ

まえがき	
1 適用範囲	1
2 アンテナの種類及び構成	1
3 用語の意味	1
4 試験条件	2
5 試験設備及び装置	2
6 試験	3
6.1 耐風速性試験	3
6.2 耐振性試験	6
6.3 耐衝撃性試験	8
6.4 耐熱耐寒試験	8
6.5 耐水性試験	10
6.6 耐腐食性試験	12
7 試験結果の表示例	13
解説	15

まえがき

この規格は、一般社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）AV&IT 標準化委員会 受信システム・アンテナ標準化グループが **JEITA TSC-16**（電子情報技術産業協会規格類の作成基準）の様式によって作成したものである。

この規格は、著作権法によって保護されている著作物であるため、許可なくこの規格の一部又はすべてを複製・転載することを禁止する。

この規格は、この規格の一部が、工業所有権（特許権、実用新案権、意匠権など）に抵触する可能性に関係なく制定されている。一般社団法人 電子情報技術産業協会は、このような工業所有権に係る確認について、責任はもたない。

電子情報技術産業協会規格

衛星放送受信アンテナ試験方法 (機械的及び環境的性能)

Methods of Measurement on Receiving Antennas for SHF Satellite Broadcast Transmissions (Mechanical and Environmental Characteristics)

1 適用範囲

この規格は、日本における 12GHz 帯の衛星放送の個別受信用及び共同受信用アンテナ、また、BS 及び CS 受信用アンテナ（以下、アンテナという。）の機械的及び環境的諸特性を比較評価するための試験方法について規定する。

2 アンテナの種類及び構成

2.1 アンテナの種類

パラボラアンテナ（オフセットパラボラアンテナ、カセグレンアンテナ等を含む）とする。

ただし、平面アンテナ等のパラボラアンテナ以外のアンテナについても、この規格に準じて適用してもよい。

2.2 アンテナの構成

反射鏡、一次放射器（円偏波発生器を含む）、BS コンバータあるいは CS コンバータ（以下、コンバータ（一次放射器と一体型のものも含む）という。）、一次放射器支持アーム及び方位角仰角調整機構で構成されるパラボラアンテナを対象とし、マストや架台、及びパラボラアンテナ用のレドームは含まないこととする。

3 用語の意味

この規格で用いる主な用語の意味は次による。

また、環境試験方法に関する用語については、JIS C 60068-1 に基づいて記載している。

3.1 機械的性能

アンテナが使用中に、外部環境から受ける種々の機械的外力（風圧、積雪、振動等）に対する性能をいい、試験項目 6.1～6.3 は最低限必要となる機械的諸特性を評価するためのものである。

3.2 環境的性能

アンテナが使用中に、外部環境から受ける種々の環境的負荷（温度、日射、雨、腐食等）に対する性能をいい、試験項目 6.4～6.6 は最低限必要となる環境的諸性能を評価するためのものである。

3.3 風速

瞬間の最大風速で規定する。

3.4 最大受風面積

実際の風はアンテナに対して種々の方向から吹き付けるため、アンテナを構成する各部位の最大投影面積を最大受風面積とする。したがって、加圧方向の投影面積とは、必ずしも一致しない。

3.5 静荷重

各部位の最大受風面積と、各部位の形状係数に速度圧を乗じた値をいう。